人財彩時記

日本防災士会山口県支部女性部長
坂本 京子（さかもと きょうこ）さん

民生委員や子どもたちなどに気象や防災の講座・講演などを行い、災害調査や防災士の育成にも関わっています。また、昨年「女性部」を結成し、女性ならではの視点を活かした防災活動に取り組んでいます。

震災を経験して

結婚を機に兵庫県尼崎市へ引っ越して3ヶ月後に、阪神淡路大震災を経験しました。毎日、数百人単位で死者が増えていく報道を見聞きしながら、泣いて暮らしていました。

泣いてばかりいた自分に喝を入れ、災害で命を失う人を一人でも少なくする手助けができる仕事をしたいと防災士の資格を取得し、日本防災士会の企画研修委員として研修会の運営やボランティアに参加したのが、防災活動の始まりです。

つながりの大切さ

活動を通してお会いする方々からいただくパワーは、私の力になっています。特に女性は、人生の大先輩が多く、若いころの苦労を笑顔に変えていらっしゃる余裕を感じます。また、忙しい現役世代・子育て世代に対して理解があり、市民活動は「焦らず、できる人が、できることから」という姿勢を教えていただきました。

防災士の活動の第一は「仲間づくり」で、多くの住民や団体、企業等と連携のとれる信頼関係を築くことが重要だと思います。防災に関わる方は年齢も職業も幅広く、私のこれまでのチャンネルにない方々との出会いはとても刺激的で、自分自身の成長に繋がっていると感じています。

防災に関心のない方に興味を持ってもらうために

災害は「めったに起きない出来事」です。だから、訓練には身が入らず、大雨の季節が過ぎれば忘れてしまいます。防災を災害から身を守るための特別な研修として参加するのではなく、日々の生活の積み重ねの中に存在するので、日常に取り入れることで、例えば家の中が整理整頓できた、地域の絆が深まったなど、毎日の生活が豊かになることを伝えたいです。

子どもたちは、小学高学年で天気や自然災害などを学びますが、防災は総合的な学習の一つです。だから、柔軟な感性を持つ子どもたちに、防災を多角的な面から考えてもらうことで、将来、家族や地域を守るリーダー的な存在になってほしいと期待しています。

防災や気象に関する情報は、日進月歩でどんどん新しくなっていくし、災害時には正確に情報を伝えなければいけないので、自分自身がしっかり学んで、分かりやすく伝える姿勢を忘れずにいたいです。

（取材：原田）